

評 価 項 目		2022 自 己 評 価
I 教 育 課 程	1. 教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生に対しては新入生説明会、在校生に対しては学年集会・行事等で、保護者等に対しては保護者会等で教育目標を周知した。 ・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の目標について、学校説明会（オンライン）の参加者に説明した。
	2. 教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標に則し、新学習指導要領に沿って編成した教育課程および学習評価を適切に実施した。 ・SSH指定校として、教育課程を適切に実施した。
	3. 年間授業日数・時数	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症感染対策を行いながらも年間予定を大きく変えることなく授業を実施し、必要な授業日数及び時数を確保した。
	4. 教育活動とその成果	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症への対応に伴う公欠や出席停止の生徒に向け、MoodleやZoomを利用し授業配信を行い、適切な学習支援を行った。
	5. 行事	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における安心・安全な学校行事の在り方を検討し、適切に実施した。 ・教育活動全体のバランスを考慮し、教育効果の高い学校行事の適切な配置を検討した。
	6. 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・進路委員会の機能を充実させ、学年間の連携を促すとともに、組織的な対応を引き続き強化した。 ・大学の入試変更や新課程に伴う大学入学共通テスト変更等について、保護者会及び学年集会を通して適切な情報発信を行った。 ・筑波大学附属高等学校との合同キャリア事業の企画・運営や学年に対応するキャリア教育実施の補助を行った。
	7. 研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・SSH指定校（4年目）として研究開発に取り組んだほか、Ⅱ期目の申請に向けた準備を進めた。 ・校内研修会を実施し、教育実践に活かした。 ・大学と連携し、授業研究等を進めた。 ・教員研究費を有効に活用し、個人研究を活性化させた。
	8. 帰国・国際教育	<ul style="list-style-type: none"> ・台北市立第一女子高級中学とのオンライン台湾研修をさらに充実させた。 ・新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、AFS、IFAなどが主催する短期・中期の留学生の受け入れはできなかった。
	9. 自治（会）活動の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における安心・安全な自治会行事の在り方を検討し、適切に実施した。 ・生徒たちの創意工夫を生かした自治会行事運営を支援し、適切な指導・助言を行いながら生徒たちの自治意識を高めることができた。 ・自治会会計について、適切な予算編成、執行、決算、監査がなされるよう指導した。
	その他	
A 普 通 教 育 を 行 う 学 校 園 と し て	1. 経営・組織	<ul style="list-style-type: none"> ・国立大学附属学校に関する有識者会議の報告を受けて作成された「附属学校教員の勤務時間の適正な管理について」に基づき、会議時間の短縮、勤務時間の適正化に努めた。 ・学校経営計画を立案し、重点目標を決定し、学校評価を円滑に行った。 ・企画運営委員会を36回開催（2月末まで）し、運営体制のあり方や業務内容の検討を行い、円滑な学校運営に努めた。 ・PTA、教育後援会、同窓会等と連携して教育環境を整えるよう努めた。
	2. 出納・経理	<ul style="list-style-type: none"> ・予算委員会・副校長・総務部を中心に、校費・寄付金（運営基金）・諸費用などの予算執行を適切に進めた。 ・SSH予算を適正かつ効果的に運用した。
	3. 施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> ・教育後援会の協力により、印刷機（帳合・製本機能含む）の購入を行うなど、教育環境の整備・改善に努めた。
	4. 健康	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健安全計画に基づき、生徒の健康の保持・増進ならびに安全教育に努めた。 ・新型コロナウイルス感染症感染予防対策を適切に実施した。 ・生活会議においては教員全体の情報共有と共通理解をはかり、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、担任団との連携をはかりつつ、個々の生徒に対する健康相談および支援を行った。 ・人間関係構築に関する初期段階のかかわり方の支援を継続し、保健の授業や保健だよりなどを通じてメンタルヘルス向上を図るための健康指導に努めた。
	5. 安全	<ul style="list-style-type: none"> ・大学と連携して安全管理体制を見直し、その充実に努めた。 ・防災設備を確認し、防災用品の在庫確認と補充に努め、災害時を想定した機能的な配置を行った。 ・4月と11月に防災訓練を実施し、「東京防災」および「お茶の水女子大学防災教育テキスト」を活用して、安全管理や危機意識に関する指導を適切に行った。
	6. 情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク環境の安定な運用に努めた。生徒使用端末の増加に伴い、引き続き校内ネットワークの増強・改善に努める。 ・ICT機器の適切な運用・管理に努めた。
	7. 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・39件（1/30現在）の活動報告を更新するなど、ホームページを効果的に運用した。 ・新型コロナウイルス感染症感染対策のため、6月及び9月にオンラインによる学校説明会を開催した。関東圏外や海外在住、また小学生の参加も見られた。（参加者数：6月1063組、9月451組） ・保護者授業参観は、新型コロナウイルス感染症感染対策をとりつつ6月に実施した。（参加者数：212人） ・8月に第24回中学生向け理数一日体験授業を実施した。6講座を開講し、92名の中学生が参加した。 ・学校評議員会および学校関係者評価委員会を7月・2月に開催し、学校運営および学校評価について有益な助言を得た。
	8. 入学検定	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症感染対策を徹底しつつ、入学検定を公正・適切に実施した。 ・昨年度導入したWeb出願システムをより有効に活用出来るよう、入学検定に関する文書・手続き等を再整理した。 ・入試問題作成において、日程を含めてチェック体制の強化、維持に努めた。
	9. 保護者等との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者等と学校間の連絡が適切に行われるよう努めた。 ・各部の活動を厳選し、委員の選出の簡素化を行うなど、PTA活動の効率化を図った。 ・PTAと教育後援会とのスムーズな連携が行えるよう、7月に懇談会を実施した。
	10. 学年活動	<p>1 学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生としての自覚を持たせ、基本的な生活習慣、学習習慣を確立できるよう支援した。 ・学校行事や委員会・部活動などを通して、自主・自律の精神および他者と協働できる態度を養った。 ・学習のガイダンスを定期的に行い、学習意欲の向上と基礎学力の定着を図った。 ・キャリア教育の推進によって幅広い進路選択を考えられるよう支援した。 <p>2 学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の充実に努めるとともに、発展的な学習や探究的な学習を通して、学力の向上を図った。 ・進路・キャリア教育を参考に、自己の適性や興味・関心を深く考え、自己実現可能な進路選択を支援することができた。 ・諸活動において、主体的に取り組み協働して目標を達成できる人材を育てるよう努めた。 ・自律した生活習慣を土台として、安定した学校生活を送るよう促した。 <p>3 学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に進路を選択し、自己実現を進めていけるよう指導・支援した。 ・生徒が既習の知識を活用しつつ、主体的かつ計画的に学習に取り組み、進めていけるように指導・支援した。 ・学校生活の様々な場面において、最高学年として相応しい態度や振る舞いができるよう、指導した。

B 大 学 の 附 属 校 園 と し て	I 大 学 と の 連 携	1. 連携研究	<ul style="list-style-type: none"> 大学関係の研究調査依頼が3件あり、調査に協力した。 学校教育研究部を中核とする5附属校園間の連携研究に20名が参加し、研究に寄与した。 2名の教員がコンピテンシー育成開発研究所の連携研究員として、コンピテンシー研究を推進した。 「新教養基礎」は計画通り10回実施し、様々な分野の講義を提供し、生徒がより有機的に学ぶことができた。 大学の公開授業をのべ83名（履修:40名、聴講:43名）の生徒が受講した。 「選択基礎」を12名（文教育学部2名、理学部6名、生活科学部4名）が受講し、特別選抜で12名がお茶の水女子大学に進学することになった。 附属高校生向けキャリアガイダンスを2年生を対象に9月に、開催時期変更に伴い1年生を対象に3月に行った。 東京工業大学ウィンターレクチャーを実施し、1・2年生全員及び3年生希望者が受講した。 筑波大学附属高等学校とのキャリア教育連携の取り組みとして、1年生のキャリアフォーラムを大学講堂で開催し、筑波大学附属高生と交流を行った。
		2. 授業交流	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症感染対策を徹底しつつ、対面やオンラインによる大学や附属校園との授業交流や授業公開を行った。
		3. 教育実習	<ul style="list-style-type: none"> 前期6名、後期20名、卒業生3名の教育実習を行い、教科指導の専門性の向上、教員として必要な資質・能力の育成を促した。今後さらなる改善及び充実を図る。 教育実習専門部会との連携を密にし、実習が有意義に行われるよう努めた。 教職実践演習の一環として、授業参観を10月に行った。
		4. 専門委員会	<ul style="list-style-type: none"> 各専門委員会はその目的に沿って適切に活動した。
		5. 大学の講義担当	<ul style="list-style-type: none"> 5教科7名の教員が教科教育法の授業を担当し、新型コロナウイルス感染症感染対策に努めつつ、その効果が上がるように実施した。 教科教育法以外の授業(1科目)を1名の教員が担当した。
		6. インターンシップ	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップの学生については、学部から1名、保健体育科と理科(物理)で受け入れた。
		その他	
	II 社 会 貢 献	1. 授業参観研修生の受入れ	<ul style="list-style-type: none"> 外部からの授業参観・学校訪問等の受け入れが3件あった。
		2. 公開教育研究会開催	<ul style="list-style-type: none"> 11月に対面で公開教育研究会を実施し、SSHを含む教育活動の成果を発信し、71名の参加があった。 3月にSSH成果発表会を実施し、探究的な学習の取り組みを発信した。
		3. 初任者研修・現職研修	<ul style="list-style-type: none"> 中堅者研修に1名が参加した。
		4. 途上国支援	(2022年度 該当なし)
		5. 出版活動	<ul style="list-style-type: none"> 研究紀要を適切な内容で適切な時期に発行し、お茶の水女子大学教育・研究成果コレクションTeaPotへ掲載した。 SSH指定校として、報告書、生徒成果集、課題研究基礎ブックレットを作成した。
		6. 各種研究会への協力	<ul style="list-style-type: none"> 講師等派遣依頼が5件あった。 学内外の研究会等に積極的に参加した。
その他			

2022年度 学校評価(自己評価)重点目標まとめ

1. 教育課程の編成(A-I-2)

- 教育目標に即し、新学習指導要領に沿って編成した教育課程を適切に実施する。
- SSH指定校として、教育課程を適切に実施する。
 - ⇒ SSH指定校として、新学習指導要領に沿って編成した教育課程及び新しい学習評価を適切に実施した。

2. 進路指導(A-I-6)

- 進路委員会の機能を充実させ、学年間の連携を促すとともに、組織的な対応を引き続き強化する。
- 筑波大学附属高等学校との合同キャリア事業の企画・運営を行う。
 - ⇒ 筑波大学附属高等学校とのキャリア教育連携の取組として、1年生のキャリアフォーラムを開催し、交流を行った。
 - ⇒ 高大連携特別教育プログラムを含めた進路指導・キャリア教育が評価され、「第15回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰」を受けた。

3. 研究・研修(A-I-7)

- SSH指定校(4年目)として、II期目を視野に入れて研究開発に取り組む。
 - ⇒ SSH指定4年目として研究開発に取り組み、学校設定科目の指導改善等実践するとともに、II期申請に向けて準備を進めた。
 - 11月の公開教育研究会において新課程教科科目及び開発科目の授業を公開した。また、3月SSH成果発表会では生徒の課題研究の成果を発信した。
 - 課題研究基礎教員用ブックレット・研究報告書・生徒論文集を作成した。

4. 施設・設備(A-II-3)

- 校舎改修後の施設・設備の未整備な箇所を順次整備するよう努力する。
 - ⇒ 教育後援会の協力により、教育環境の整備・改善に努めた。校内ネットワークの増強を更に進める。体育館の環境整備について検討課題とする。

5. 健康(A-II-4)

- 学校保健安全計画に基づき、生徒の健康の保持・増進ならびに安全教育に努める。
 - ⇒ 新型コロナウイルス感染症感染予防対策を適切に実施した。

6. 入学検定(A-II-8)

- 入学検定に関する文書・手続き等諸課題の検討と、入試問題作成及び採点業務に関し、チェック体制・危機管理体制の強化維持に努め、公正な入学検定を実施する。
 - ⇒ 昨年度導入したWeb出願システムをより有効に活用できるよう、入学検定に関する文書・手続き等を再整理した。

7. 連携研究(B-I-1)

- 高大連携特別教育プログラムの円滑な実施に努力するとともに、「新教養基礎」の運営改善や「キャリアガイダンス」に取り組む。
 - ⇒ 「新教養基礎」は計画通り実施し、様々な分野の講義を提供し、生徒がより有機的に学ぶことができた。
 - 附属高校生向けキャリアガイダンスは今年度から1年生を対象に3月に実施することになった。